

I 事業の概要（地域の実情含む）

本校の学区には陸中海岸国立公園の一つである碁石海岸があり、多くの観光客が訪れる。産業としてはわかめなどの養殖業を営む漁家及び冷蔵事業や民宿など水産や観光に係わる業態が特徴である。

本校では地域の漁家の協力を得て、わかめの養殖から販売までを行う学習を平成14年から実施し、修学旅行の時に東京で販売を行っていた。東日本大震災では、使用していた養殖施設や刈り終えたわかめをすべて流され販売することはできなかった。しかし、全国からたくさんの支援をいただき、震災の翌年にはわかめ学習を開始させ、販売先を盛岡に変更した。

本校では「郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成する」を目標に以下の3つの重点目標をたて、復興教育を実施している。

- ① わかめ学習を通して、自然の恵みや地場産業、漁業関係者との関わりをもつことによって、地域住民としての自覚を深め、勤労観・職業観を育てる。【主に「かかわる」】
- ② 道徳の授業を中心に復旧・復興に向けて努力してきた先人に学び、目標を持って生ようとする態度を育てる。【主に「いきる」】
- ③ 防災学習を通して、災害に備え、身を守るための方法や情報の収集、日頃の備えなど防災について関心を深める。【主に「そなえる」】

本校の復興教育は体験活動を中心に、地域の人材を活用して実施している。

II 取組の概要

1 わかめ学習

(1) 森林体験（3年）

＜6月12日事前学習、6月21日実施＞

事前学習では三陸中部森林事務所の方から森林と海との関係、森林を手入れすることの大切さ、当日の作業の説明をしていただいた。特に、草刈り鎌の使い方については森林事務所の方が見本を示し、教えていただいた。

当日は下刈・植樹の作業を2班に分けて実施した。当日の天候は午後から雨が降る予報だったので、午前中だけの作業になった。そのため、間伐の作業はできなかったが、作業範囲の広さや大変さ、作業の大切さなどを学ぶことができた。



＜事前学習＞



＜森林体験学習＞

(2) わかめ芯抜き（2年）＜6月21日実施＞

前日に本校のわかめ学習スーパーバイザーの尾崎さんに芯抜きの仕方を指導していただいた後、わかめの芯抜き作業を実施した。当日は漁協の婦人部の方々にも協力をいただき、大量のわかめを「元葉」「中芯」「芯抜き」の3種類に分ける作業を1日行った。小休止を入れながら、22名で約250kgのわかめを芯抜きした。生徒達は作業の大変さを感じながらも食べていただくお客様のことを考えながら衛生面にも気をつけて作業を行った。



(3) わかめパック詰め(2年)

<9月3日実施>

6月21日に芯抜きしたわかめをパック詰めの作業を行った。ラベルを貼り、わかめを計量し、袋に詰める作業を1日行った。合計739袋になった。衛生面に気をつけることはもちろん、信頼性にも関わるので、計量を慎重に行い、パック詰めしたときの見栄えにも気をつけて作業した。



(4) 接客講習会(2年)<9月25日実施>

ファミリーマートの協力をいただいて、ポップづくりや笑顔の作り方、商品の渡し方・お金の受け取り方等を学習した。特に、笑顔の作り方は生徒にとっては印象が強かった。



(5) わかめ販売(2年)<10月3日実施>

盛岡のフェザン、肴町商店街でわかめ販売を行った。わかめを買っていただいた方々から「頑張ってね」「完売できるといいね」という励ましをいただきながら販売を行った。フェザンや肴町商店街の方々からも宣伝していただき、当日は多くのお客様にわかめを買っていただいた。



<フェザン>

生徒達は、販売体験を通して、「人と人との関わりをもつためにコミュニケーションをと

ることの必要性」や「お客様の気持ちを考えることや感謝の気持ちを持つことの大切さ」について気づいた。接客講習会で作成したポップを店頭に掲げ、販売講習会で学んだ笑顔の作り方を実践し、無事739袋を完売することができた。



<肴町商店街>

(6) わかめ学習オリエンテーション(1年)

<11月15日実施>

本校のわかめ学習スーパーバイザーの尾崎さんから、今後実施するわかめ学習について説明していただいた。1年生にとって初めてのわかめ学習である。尾崎さんからはわかめの生態系や養殖の仕方などを説明していただいた。その後、11月下旬に行われる種巻きの実習を行った。種がついたロープを大きなロープに巻き付ける作業であるが、種がついたロープの結び方(本結び)に悪戦苦闘する生徒もいた。生徒は養殖わかめの作業の難しさを感じるとともに、おいしいわかめをつくろうという決意を固めた。



(7) ロープ補修(1年)<10月31日実施>

わかめ養殖に使うロープや浮き球の補修作業を行った。前年度に使用した種糸を外し、浮き球のペイントを落とし、新しく浮き球にペンキを塗った。人数が少ない中、お互いに協力して作業をした。

その後、種巻きの練習をした。種巻きの練習ではロープの結び方を再度尾崎さんに教わった。結び方がうまくできない生徒もいたが、お互いに教え合って種巻き作業の準備を行った。



- (8) わかめ種巻き (1年) <12月2日実施>
種の生育が遅れたため、例年より1週間遅い作業になった。約20名の漁家の方にも来ていただいて作業を行った。当日は波が荒く、船酔いする生徒もいたが、協力して種巻き作業を行った。

揺れる船の上での作業で、種のついたロープはぬるぬるしているため、練習通りとはいかなかった生徒もいたが、漁家の方々に種の巻き方をアドバイスしていただき、作業を終えることができた。波が荒い中でも作業をしている漁家の人たちの大変さを感じるとともに、おいしいわかめをつくりたいという決意をもった生徒も多かったです。



- (9) わかめ調理実習 (3年) <11月28日実施>
岩手県生活衛生営業指導センターの「生活衛生業の体験学習」でわかめの調理実習を実施して3年目になる。今年も岩手県飲食業生活衛生同業組合大船渡支部の協力をいただき、わかめの調理実習を行った。



生徒達はプロの調理師に指導をいただきながらわかめを使った料理2品をつくった。生徒たちは工夫されたわかめの料理をつくり、わか

め料理の奥の深さに関心を持った。この料理のレシピは来年のわかめ販売でわかめを購入していただいた方々に配布する予定である。



- <「末中わかめと豚肉のふわふわ卵炒め」と「末中わかめのぷりしゃき水餃子」>

- (10) わかめ早刈り (1年) <1月27日実施>
わかめの間引き作業にあたる早刈りを行った。船に乗っての作業は2回目である。当日は波や風があまりなかったため、前回より作業がやりやすかった。漁家の方々からどのわかめを間引けばよいかを教えていただきながら作業した。今後はわかめの本刈り作業を3月2日に実施し、湯通し、塩蔵作業を行い、来年度のわかめ販売に向けて準備を進める予定である。



2 復興道徳・防災学習

- (1) 先人に学ぶ道徳 <7月25日実施>

『岩手県版中学校道徳資料集 郷土の未来を見据えて～先人の生き方に学ぶ～』で取り上げられている郷土の復興を進めた先人達に学ぶ道徳の授業を実施した。1年生は「小松藤蔵」、2年生は「和村幸得」、3年生は「後藤新平」について学習した。



先人の功績をパワーポイントで紹介しながら、苦難に出会ったときの行動について学級で話し合い、「自分ならどうするか」という視点で考えさせた。今後の自分の生き方につなげることを目的に授業を行った。生徒は「どんな苦難にも諦めないこと」「周りの人のことを考えること」等を学んだ。

(2) 郷土の復興・発展を考える道徳

＜12月12日実施＞

今年度できた岩手県道徳教育郷土資料集『ふるさといわての心』を使った道徳の授業を実施した。この資料集を使ったねらいは「地域の復興・発展のために思いやりを持つことや社会参画に対する態度、よりよく生きようとする態度を育てるとともに、地域に関わっていこうとする態度を養う」ことである。

1年生では「でんでん虫は優しさをのせて」2年生は「六百リットルの水」3年生は「僕らの復興のシンボル」の授業を行った。身近な話題で生徒にとって考えやすい題材であった。生徒は感謝をどう伝えたらよいか、自分たちの住んでいる地域に対する思いを再認識し、自分たちが地域に何ができるのかなどを考えることができた。

(3) 防災学習＜9月10日実施＞

2学期の授業参観で防災学習を全学年で実施した。3年生は親子で防災学習を行った。1年生は「防災に関する知識」、2年生は「予期せぬ大雨に出会ったときの対応」、3年生は「災害に対する備え」について学習した。



生徒は学習を通して、「災害が起きたときは自分の身を最初に守ること」「災害時の集合場所や食料などについて家族と話し合うこと」「冷静に行動すること」等を学んだ。

授業後、保護者からも感想をいただき、「家庭でも防災について話題にしたい」「みんなと防災について話し合うことによっていろいろな意見が出てきてよかった」等、保護者にも好評であった。

(4) 防災体験学習＜11月13日実施＞

避難訓練の後、大船渡消防署の方々を講師に迎え、防災体験学習を実施した。1年生は消火訓練、2年生はAED講習会、3年生は応急処置について学習した。生徒達は体験学習を通して、命を守ることの大切さを学び、緊急事態があったときに生かしたいという感想を持った。



III 取組の成果と課題

1 成果

- (1) 本校のわかめ学習は15年以上続いており、地域の協力もあって充実している。ただ、体験だけの学習に陥りやすいこともあるので、事前・事後の学習を充実させ、学習計画を再編することができた。
- (2) 「先人に学ぶ道徳」以外に今年度できた「ふるさといわての心」の副読本を活用した道徳も取り入れ、【いきる】【かかわる】の教育的価値にも迫る学習計画を立てることができた。
- (3) 防災学習は現在の3年生が1年生から実施しており、防災に対する本校の学習計画ができあがった。今年度はさらに、大船渡市消防署の協力を得て、各学年の体験学習も実施することができた。

2 課題

- (1) 本校の生徒数も少なくなり、令和3年度には大船渡中学校との統合も予定されている。本校のわかめ学習について、大船渡中学校との話し合いが必要である。
- (2) 3年続いている防災学習を今年度は授業参観日に実施したが、保護者も含めて地域の人たちに本校の復興教育を参観していただく機会をできるだけ多くしたい。
- (3) 今年度実施した防災体験学習では2, 3年生の学習内容は充実したが、1年生の消火訓練だけでは時間を有効的に使うことができなかった。来年度は、消火訓練以外に、「徒手搬送」を取り入れ、体験学習をさらに充実させていきたい。